

算数

小学校 第5学年

OS・ソフト等

- Windows
- SKYMENU Cloud
- NEW! GIFU ウェブラーニング
- PowerPoint

<単元・題材名等>

割合

ねらい

数直線図や言葉の式を使って基準量を求める方法を考える活動を通して、基準量を□として比較量を求める式に表すと基準量を求められることに気づき、基準量を求めることができる。

主なICTの活用方法

- ・ 協働学習支援ツール (SKYMENU Cloud) の「発表ノート」機能を用いて、自分の考えを数直線図や式を用いて整理し、相手に画面を見せながら説明する。

ICTを通じて育成する資質・能力

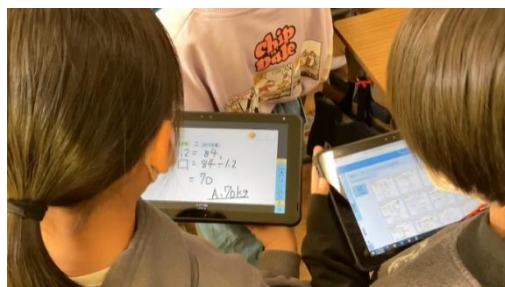
- ・ 根拠を明確にして話したり、筋道立てて説明したりすることができる。

実践の概要

- 1 PowerPoint のアニメーションで示された問題場面を見て、基準量や比較量に気付いたり、答えの見当をつけたりする。
- 2 「発表ノート」を活用して、自分の考えを整理する。(児童が自由にヒントカードを見られるようにしておく)
- 3 整理した考えを教師に提出する際、自分の状況(説明できる・不安)が教師や仲間に分かるようにスタンプを押す。教師は、提出されたノートを全員で共有できるようにする。
- 4 不安がある児童をなくすために、ICT 端末の画面を見せながらペアで説明し合う。同じ考えの児童や別の考えの児童と交流し、自分の考えを確かめたり、広げたりする。
- 5 NEW! GIFU ウェブラーニングの「きょうのもんだい」に取り組み、学びを確かなものにする。
- 6 本時の学習の振り返りを発表ノートに保存し、学びを自覚化する。

児童の学びの様子

- NEW! GIFU ウェブラーニングの「きょうの問題」における県の正答率が低い数直線図の問題について、ICT 端末上に数直線図をかいたり、数直線図から立式したりして、自分なりの方法で課題解決を目指す姿があった。
- 自分の考えた式と計算の仕方について、ICT 端末に書き込みを加えながら、相手意識をもって仲間に説明することができた。
- 教師がNEW!GIFU ウェブラーニングにおける「単元別分析シート」や「リアルタイム把握」の機能を用いて、児童の学習状況を見取り、個別の支援を行うことによって、正しく数直線図をかいたり、□を使った乗法の式から除法の式を導いたりすることができた。



指導のポイント

- 児童が問題設定をイメージして立式できるようにするために、共有フォルダに数直線図等のデータを格納しておき、自由に活用できるようにしておく。
- 立式するための参考にしたり、自分の考え方と比較したりするために、協働学習支援ツールにおいて、仲間の取組状況を閲覧できるようにする。
- 仲間との交流を通じて、深まった考え方について、再度 ICT 端末上で自分の考え方と比較して整理できるようにする。